

- ・ 非重症患者は発症10日目以降に鼻咽頭の抗原定量検査を実施し2桁以下を確認。以下のBに沿って解除する。
- ・ 10日間の隔離を短縮する場合は以下のAの目安で検査を実施しBに沿って解除を検討。

A 隔離解除のための検査実施日の目安

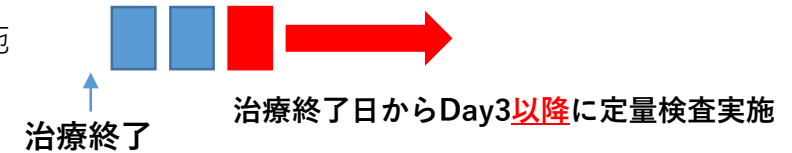
A-1：無治療患者 症状発症または陽性日から**8日目以降**に定量検査実施

A-2：治療対象患者 抗ウイルス薬の治療終了日から**3日目以降**に定量検査実施

例) 抗ウイルス薬内服**5日間** or
ベクルリ**5日~10日間**投与

A-3：治療対象患者 抗ウイルス薬の治療終了日から**5日目以降**に定量検査実施

例) ベクルリ**3日間**投与



※検査オーダー項目：10日目以降は鼻咽頭抗原定量検査が推奨されている

B 隔離解除基準

B-1：症状がないことと2桁以下で解除可能

B-2：咳嗽症状・エアゾル発生手技があれば、2回の2桁以下を確認して解除可能

○3桁以上であれば、次回は3日間程度間隔を空けて再検査。

原則、隔離解除基準のB-1またはB-2を満たすまでは個室隔離

解除後の注意点

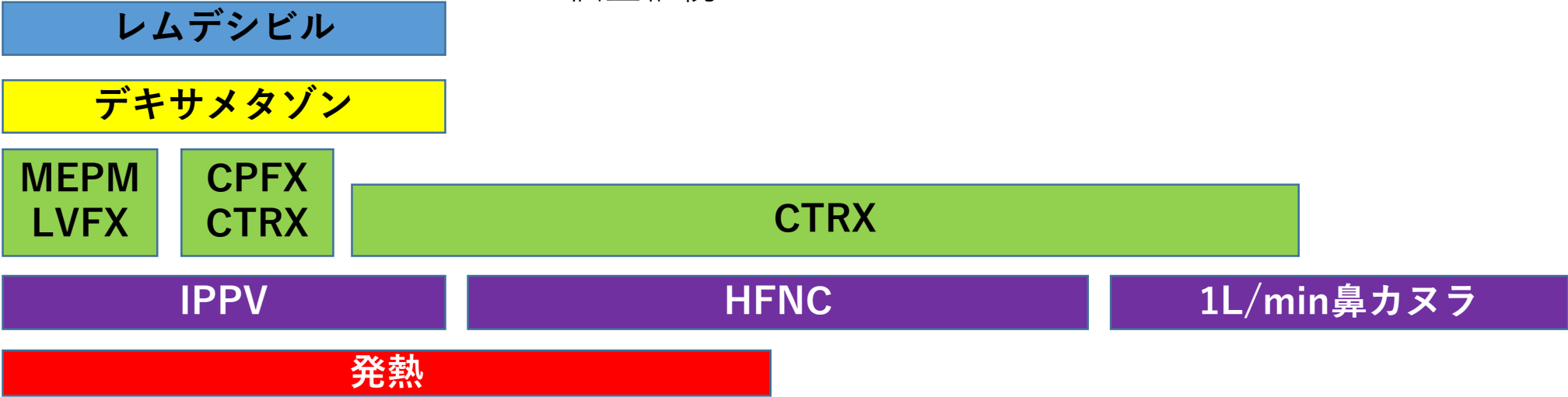
隔離解除後の10日間程度は、咽頭痛・微熱・咳嗽の再燃症状を十分注意して観察し、症状が出現すれば個室隔離と再検査を行う。

リバウンド症例

86歳 男性 #.COVID-19（重症） #.肺炎球菌肺炎



個室継続



	8/23	8/25	8/28	8/31	9/6	9/14	9/22
SARS-Cov2 抗原定量	8	62	29	11	≧ 5000	518	6

COVID-19 リバウンド(再燃) 情報提供

- 症状が再発した人は少なくとも**5日間**、自主隔離するよう勧告
- リバウンドのケースは症状が回復してから**2～8日後**に再び症状が出始めている
- リバウンドのケースの症状は軽症であり、その後の治療は特に必要ない
- リバウンドが確認された場合について、他者への感染力があると想定して改めて5日間の隔離を行う

*This is an official CDC HEALTH ADVISORY
Distributed via the CDC Health Alert Network May 24, 2022, 9:00 AM ET CDCHAN-0467*

- リバウンドは薬剤耐性との関連はない。
- パキロビット開始され**9日目～15日目**（治療期間は**5日間**）のリバウンドは稀ではない
- リバウンドでは重症化することは稀であるが周囲への感染力は有る。

N Engl Jmed 387;11 nejm.org September 15, 2022

- ラゲブリオ・パキロビット治療後のリバウンドは**1%以下**と稀であり死亡リスクの増加とは関連しない

JAMA Netw Open. 2022 Dec; 5(12): e2245086. Published online 2022 Dec 6. doi: 10.1001/jamanetworkopen.2022.45086